



Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌 Design 号外 27号です。表面は、住民医療フォーラムのお知らせです。裏面は、8月の問い合わせ状況の報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

問い合わせ窓口に関する広報のお知らせ

相談窓口を明確にし、地域からの受け入れを促進するため、右図のような案内を作成しました。表面は連絡先を明記し、裏面は当組合の概要と地域を支える取り組みについて紹介しています。

院内での配架の他、各市町村の担当窓口や地域包括支援センターなどにも配架させて頂ければと考えていますので、よろしくお願い致します。

地域包括ケアシステムを支えるため、当組合ができることをしていきたいと思っています。引き続き、よろしくお願い致します。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

第23回 住民医療フォーラムのお知らせ

以下の日程で、第23回住民医療フォーラムが開催されます。お気軽にご参加下さい。会場は当院9階会議室です。

*

○日時：2019年10月17日（木）午後3時30分～午後5時00分

○テーマ：山城南圏域でのリハビリテーション診療の充実を目指して

○内容

- ・第1部 ミニレクチャー 「気になる食べる力の衰え」

池田 巧 部長（第一赤十字病院 リハビリテーション科）

特別講演 「いつまでも元気で暮らすために」

三上 靖夫 教授

（京都府立医科大学 リハビリテーション医学教室）

- ・第2部 質問コーナー「みんなで考えようリハビリテーション」

三上 靖夫 教授

池田 巧 先生

吉田 宗彦 先生（当院リハビリテーションセンター長）

岡村 孝文 先生（当院リハビリテーション科課長）

～ 8月の問い合わせの状況について ～

8月、地域の皆様からお問い合わせ頂きました件数は36件となっています。できる限り受け入れさせて頂きたく、日々調整をしていますので、引き続きよろしくお願ひします。

0774-73-1818 (担当: 中野・中嶋・松田)



地域医療連携室より

～ 関わらせて頂いて ～

お父様のご逝去された報告に、娘様が来て下さいました。その日の夜、その患者さんとご家族のことを思い出しましたので、少しだけ触れさせて頂きます。

*

私の初めの直接的な関わりは10年程前、脳出血で当院にご入院されたときです。奥様と娘様がとても熱心で、ほぼ毎日当院に足を運ばれていた記憶があります。その時は、年齢も比較的若かったことや集中的にリハビリを受けられた方が良い時期であったことから、リハビリ専門病院を複数ご紹介し、最終的にはご家族が希望されたリハビリ病院へ転院されました(その後、介護保険サービスを利用しながらご自宅で生活されていたと伺いました)。

2年程前、地域包括ケア病棟“彩り”に入院されたことがありました。病室に伺うと、奥様と娘様がおられ、以前と変わらず奥様と娘様は熱心な様子で、「しっかりせんと家に帰れへんで」とご本人に発破をかけておられ、ご本人は言い返す言葉もなく、なんとも言えない表情をされていたのが印象的でした。治療の過程で痰の吸引が必要な状況になりましたので、退院後、ご家族が痰の吸引ができるよう入院中に病棟Nsが手技の指導をさせて頂きました。

*

娘様は「この1年間は病院に入院していることが多かったのでは」と、お父様の死をある程度は覚悟しておられたとのことでしたが、目の奥には涙を溜めておられ、寂しさが拭えないご様子でした。いつものように、私にはかける言葉が見つかりませんので、ただただお話を聴くことしかできませんでしたが、聴きながら、ご本人がご入院中、娘様がお父様のことを「おとうちゃん」といつも呼んでおられたことを思い出し、関わらせて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。(地域医療連携室 室長 南出 弦)